

## 授業者の反省と授業の概要

授業者の山崎あかね先生によると、6年1組の児童は図工について好きな子と苦手意識を持つ子が分かれていたものの、今回の単元では苦手な子もしっかり取り組めていたと感じています。

- **具体的な児童の様子:** Mさんは普段の図工の授業では、何をしたいか分からないと手を止めてしまうことが多い児童ですが、修学旅行でとても楽しめた食事バイキング体験を表現したいという強い思いから、食べ物の写真を大量に持ち込み、丁寧に配置するなど、積極的に活動に取り組みました。
- **授業運営:** 活動中、児童たちの集中を妨げることを懸念し、担任が話す量を調整することに戸惑いながらも、見守りつつ、切り方や重ね方に工夫が見られる児童を取り上げながら授業を進めました。
- **素材について:** 児童たちは修学旅行中から、図工に使うためにパンフレットや割り箸の入れ物などを自発的に集めており、コラージュ素材としてピチュー(引率の先生が下見に行った体で撮った写真に写っていたポケモン)を使用する児童もいました。

## 研究討議の焦点と結果(1班の討議内容)

研究討議は「視点1:子どもたちは自分の主題を表すために構成について考えていたか」と「視点2:コラージュの技法を取り入れたことは想像を楽しむ活動に繋がっているか」を中心に、付箋を用いながら振り返りを行いました。

### 視点1:構成と思考錯誤の様子

多くの先生方が、児童たちが主体的に構成を練っていた具体的な姿を共有しました。

- **児童の工夫:**
  - **Aさん:** 思い出を表現するため、背景に雨の日と晴れの日(1日目と2日目)の様子を表現しようと、写真の配置や奥にまでこだわっていました。
  - **Hさん:** 主題を「やばいしエグかった」とし、建物をテーマにする子が多い中で、食事に注目して作品制作を進めていました。素材の切り方が非常に丁寧で、几帳面な性格が制作から感じられました。

- **AKさん**: 主題は「協力して全力で楽しめた修学旅行」。彼女は最初に自画像を右下に置いていましたが、その後、国会議事堂の写真を配置する際、その素材の収まりが良いように、授業の最後には自画像を左側に動かすなど、構成を深く考えながら取り組んでいました。また、バスが画面の外から飛び出してくるように、バスの手前部分に垣根のような切り抜きを施すなど、細かい部分まで効果を考えながら制作を進めていました。本時は画面全体の基本となる部分についてしっかり構成を決めようと取り組んでいたように感じました。彼女の主題に迫るためのコラージュ活動は次時が本番となるでしょう。是非そこも拝見したいと感じました。
- **Tさん**: 始終表情を変えず、集中して制作に取り組んでいました。彼は用意された東京スカイツリーの背景を細かく切り取ったり、自分で持ってきた素材をよく見たりしていました。特に、コラージュに「文字」を切り出して使用したことは、発想を広げた例として注目され、先生からの肯定的な声かけ(「文字もいいね!」)でさらに自信を深めたようでした。
- **MYさん**: 国会議事堂の写真とジェットコースターの写真を組み合わせ、ジェットコースターが国会議事堂に突っ込んでくるような、ありえない配置を試していました。
- **主題設定に関する議論**: 主題(強く表したいこと)を設定することは大事だが、5・6年生の児童にとって難しい場合があるため「修学旅行の思い出」のような大きなテーマや「キーワード」から入っていき、制作の中で主題を固めていく方法も有効ではないかという意見が出されました。
- **教員の導入と支援**: 授業冒頭で、先生がコラージュの様々な方法(完成させない状態、場所を変える試行錯誤、枠からはみ出す表現など)を実演したことが、児童が自由に表現するきっかけとなり大変良かったと評価されました。

## 視点 2: コラージュ技法の効果と想像の楽しさ

コラージュ技法は、図工が苦手な児童にとって「描かなくていい安心感」を提供し、非常に有効であると評価されました。

- **コラージュの利点**:
  - **没頭のしやすさ**: 全学年が楽しめる活動であり、自分が経験した思い出の場면을素材に使うことで、児童が没頭しやすい創作活動であると捉えられます。
  - **表現の幅**: 好きな部分を切り取る「クローズアップ」の良さや、写真では実現できない「ありえない組み合わせ」を作る楽しさ(例: 国会にジェットコースターが突っ込む等)が得られました。

- **満足度**:Hさんが活動終了間際、残りの活動時間を伝えられた際「早え(早い)」とつぶやいたように、楽しい時間は早く過ぎ、活動への満足度が高かったことが示唆されました。
- **授業の成功要因(背景画)**:本時コラージュを行う前の時間(前時)、児童たちは「モダンテクニック」を使い、自分の主題に基づいてイメージした色の背景(画面の雰囲気)を楽しんで作成していましたが、それが本日のコラージュ活動への期待感や意欲を高める土になっていたとされる点が重要視されました。
- **今後の構成への課題**:集めた素材を全て貼るのではなく、構成を重視するために「引き算」をする(素材を減らして背景を生かす)視点を持つことの重要性が指摘されました。また、感情表現(楽しい、協力)が主題の場合は、アルミホイルや毛糸など、平面だけでなく立体的な素材を取り入れることも提案されました。

### 個別の課題事例(MTさんの「パニック」とは?)

MTさんの主題は「パニックがありすぎた修学旅行」でしたが、持ってきた素材が少なく(3つのパンフレットのみ)、更に「写真は嫌だ」と発言していたため、創作に行き詰まる姿が見られました。

- **パニックの具体的な内容**:ホテルでシャワーの水が冷たかったこと等のトラブルが原因である可能性が示唆されました。
- **対応策の検討**:このグループでは、授業前に担任の先生がみつきさんにどんな写真(ホテルなど?)を使いたいのか尋ね、彼が抱く「パニック」のイメージに合う素材を再準備することが提案されました。彼は制作後に他の児童の作品をじっと見て回っていたことから、意欲は十分にあると推測されています。

### 本時の評価すべき点

東春近小の山崎重幸先生は、辰野東小授業者の山崎あかね先生が行った本時授業について、子どもたちに対する「肯定的な声かけ」が特に優れていると評価しました。

- **具体的な褒め方**:単純に「いいね」「きれいだね」と言うのではなく、子どもたちの作品の「どの部分」が素晴らしいのか(例:キラキラの包み紙を貼ったところが良い、文字のコラージュを切り抜いて貼った点が良い、大きな写真がどーんと貼られてインパクトがある 等)あかね先生が子どもたち個々に対し、具体的な観点を示しながら個々の制作を認める声

がけを行っていたことが、子どもたちの制作活動に対する自信に繋がっていたと述べています。小学校図画工作科の授業に臨む全ての担任の先生方には是非見習ってほしい点であるとも述べていました。

- **個々の良さの共有とあたたかな心根**: また、子どもたちの工夫(例: バスが画面外から続いて走って来ているように見えるレイアウトの工夫、写真を手でちぎって貼り付ける手法等)をすぐに発見し、それについて具体的に認めたり、学級全体に紹介したりする指導が素晴らしいと述べられました。また、あかね先生が心底楽しそうに子どもたちの作品を見たり、皆に笑顔で声を掛けたりするその明るくあたたかな心根が、学級児童たちの前向きな雰囲気(生き生きと制作に臨む姿)を支えていると結論付けました。

## 指導者の助言(北澤指導主事先生)

指導者の北澤先生は、今回の授業の成功は日頃の教師と子ども、子ども同士の「安心感」が確立されていた大前提の上に成り立っていると強調しました。

- **適切な支援の重要性**: 教員は、ただ褒めるだけでなく、授業の狙い(今回は構成)に沿った言葉を添えて支援すること(適切な支援)が大切です。例: 「場所を決めたら貼っているの?」という問いに対し「色々試してみて、決まったら貼っているよ」と答えることで、構成の思考錯誤を促しています。
- **構成の美しさ**: 構成の学習を深めるためには、教師が児童に「比べる」「遠くから見る」「主題に照らす」といった「手がかり」や「足場」を提供し、思考錯誤を促す必要があると述べました。
- **高学年図工のポイント**: 5・6年生では、学習指導要領において「伝え合う」「構成の美しさ」「主題」という要素が新しく入ってきます。
- **主題の定義**: 主題とは「作品名」ではなく、生徒自身が心の中で強く表したいことであり、言葉にして整理することが大切です。
- **共通事項の焦点化**: 図工の学習目標(造形的な創造活動)を達成するためには、奥行き、バランス、動き、光や影といった「共通事項」を、その単元で教員が「何を指導するか」明確に焦点化して指導する必要がある、と指摘しました。